

『時事直言』 No.681 2011年10月20日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>

時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>

FAX：03-3955-6466



時事評論家 増田俊男

＊お詫びと訂正：

10月17日（No. 680）中、中国で今進んでいる低額所得者向けの住宅（戸建を含む）の数を「年120万戸」と書きましたが「月120万戸」の間違いでした。

一戸に3人住めば月360万人、年間4,320万人となります。今後中国のGDPの成長に貢献してきた外資系の撤退に備えた内需拡大策です。

短期経済予測：

（読者から「ここ一番！」（有料）を購読したいが難しいので、時々「時事直言」で経済予測をお願いしたいとの声がしばしば寄せられるので今回は概ねの予測を本誌で述べ、具体的な作戦やアドバイスは「ここ一番！」に譲ることにします）。

今後、長期（向こう3-5年）にわたって日本を除く先進国の経済が低迷することには変わりはありませんが、2012年いっぱいには3/11（東日本大震災）以降の過剰悲観論の反動で株式市場も商品市場も上方修正され楽観論が再び台頭して来るでしょう。

第3四半期、世界の株式市場は歴史的な乱高下を繰り返しながら結局マイナス16.6%でした。欧州の財政問題とアメリカのリセッション再来不安ばかりが市場を覆い一貫して売り手市場（Bear market）でした。期間中（アメリカの）シカゴやミルウォーキーのISM（景況感）が56ポイントから60.4ポイントに改善されたことや、9月だけで物流が3.5%も上がりアメリカの実体経済回復の兆しが見えていたのですが無視されてきました。又、新興国代表の中国の経済成長の鈍化のニュースもアジア株の足を引っ張りました。中国のGDPのけん引役は不動産開発と大企業中約50%を占める外資系企業です。中国の経済成長が昨年9.6%から本年第3四半期の成長が年率9.1%に落ちたのは欧米の景気後退による輸出額の低下と政府が過去1年間に6度の利上げと8度の銀行窓口規制をして不動産過剰開発を押さえてきた結果でむしろ中国経済には好ましいことです。

第4四半期の世界経済は、こうした隠れたGood newsにアメリカの企業業績の改善が加わり買い手市場（Bull market）になるでしょう。第4四半期の世界の株式市場は、相変わらず乱高下ですが株価の上昇率は若干プラスになると考えます。2012年は日本の3月決算が円高にもかかわらず、特に輸出産業が未曾有の好決算となることから世界の株式市場は日本主導で買い手市場（Bull market）に進みます。大手ヘッジファンドの中には「日本買い」の率を50%にまで引き上げる動きが出てきました。分析の詳細は「ここ一番！」で。

大好評配信中！増田俊男の「ここ一番！」

「ここ一番！」はここ一番のタイミングにアドバイスをお送りする増田俊男のニュース・レター。「投資家の友」として親しまれています。「危ないところを救ってくれてありがとう」、「儲かっています！」などなど好評です。読者の特権としてご質問に増田が即答します。

お問合せは、(株)増田俊男事務所 TEL:03-3955-6686 まで

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前に株式会社増田俊男事務所（TEL03-3955-6686）までお知らせ下さい。